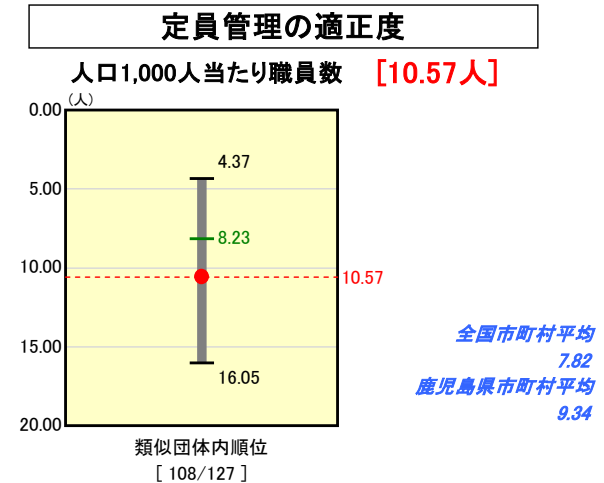
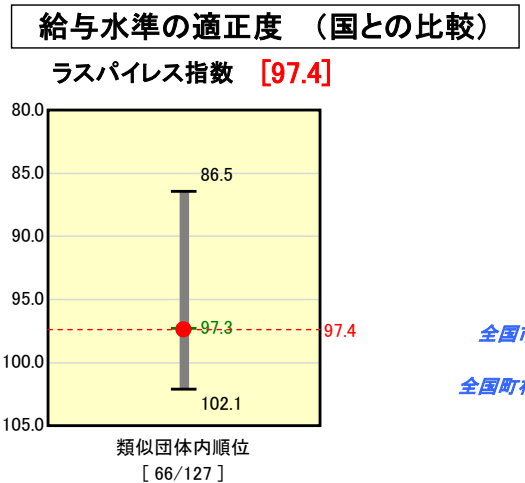
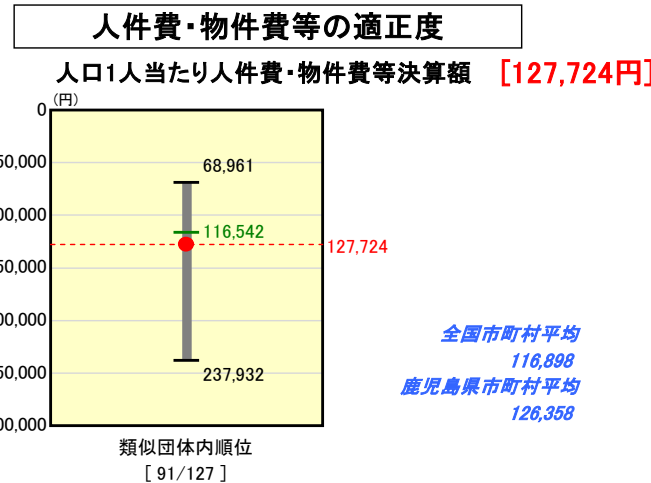
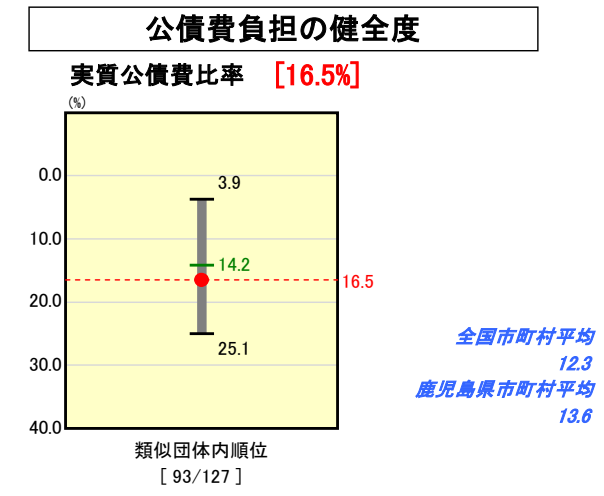
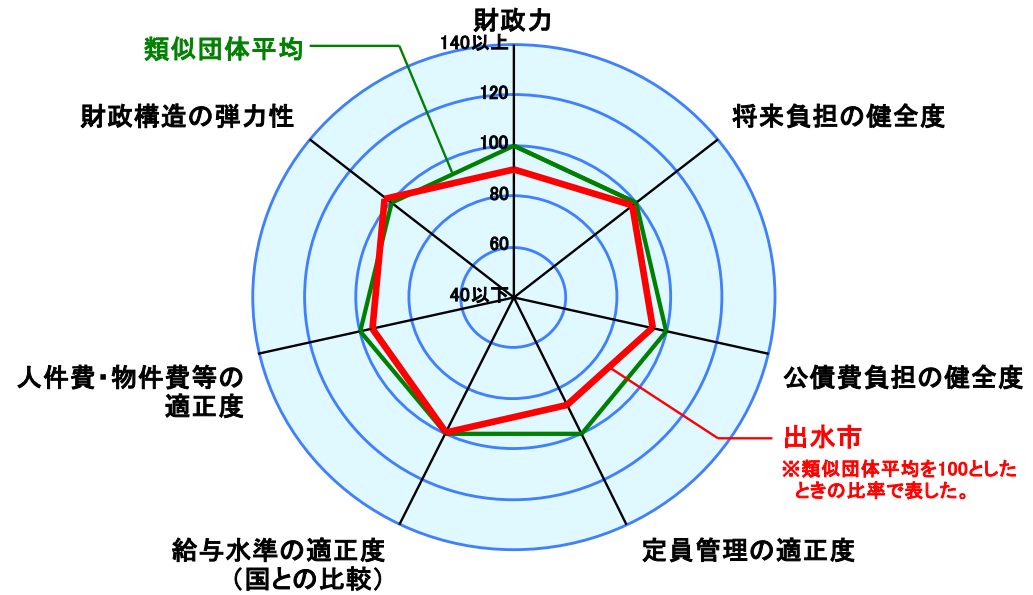
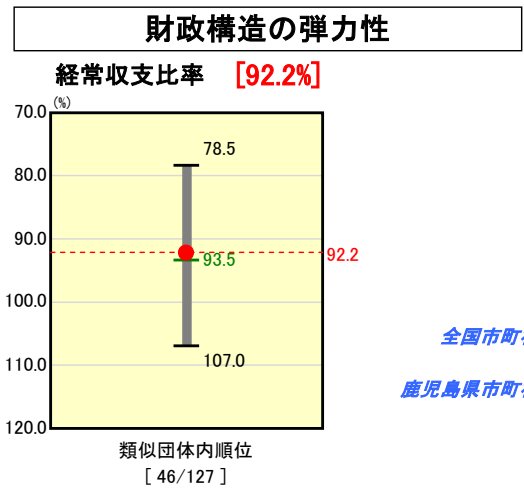
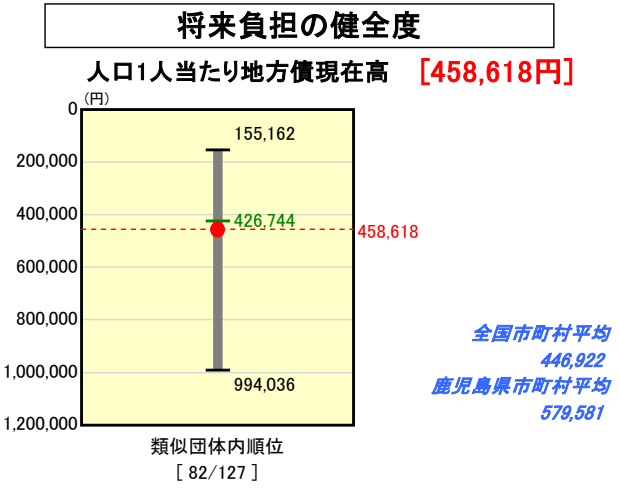
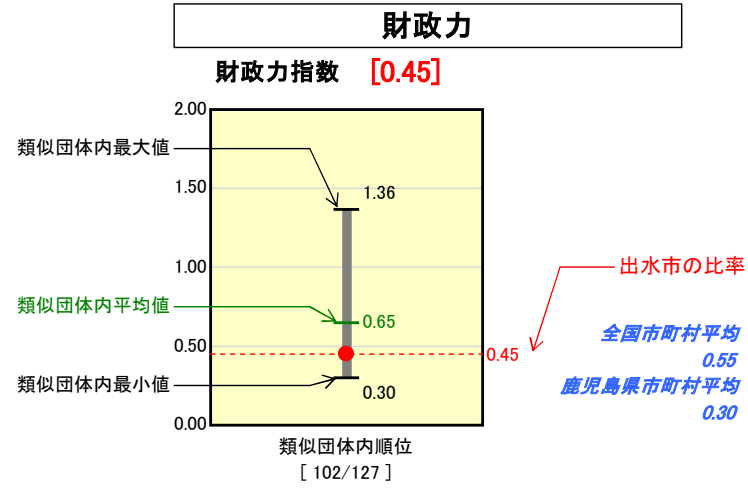


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

鹿児島県 出水市

人口	57,310 人(H20.3.31現在)
面積	330.06 km ²
歳入総額	24,767,745 千円
歳出総額	24,248,786 千円
実質収支	511,270 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
※平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
※ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

分析欄

○財政力指数
北薩広域一部事務組合の産業廃棄物処理の公債費が償還終了することなどにより基準財政需要額が減少したため0.45となっているが、類似団体平均と比べると低い数値となっている。今後も引き続き行政の効率化を図り、財政健全化に努める。

○経常収支比率
類似団体平均よりは、1.3%低いのが、前年度より1.4%上昇し、92.2%となった。下水道会計への繰出金等が増加したことにより上昇したことが考えられるが、平成20年度に下水道使用料を見直したことにより、また、今後、定員適正化計画に基づき人件費の抑制を図るとともに、公的資金補償金免除繰上償還を活用し公債費の抑制に努め、経常収支比率の改善を図る。

○ラスパイレス指数
平成18年8月からの給与カット(1%~8%)を平成19年度も引き続き実施したことにより、ラスパイレス指数は平成18年の99.3から97.4に1.9ポイント減少している。しかしながら、類似団体平均の97.3を0.1ポイント上回っている。今後、昇格、昇給基準の適宜見直しに努めるとともに、財政状況に配慮し、給与カットの継続を検討する。

○実質公債費比率
昨年度、16.2%から0.3%増加して16.5%となった。これは、3公立病院と下水道事業(3会計)への繰出しが大きいことが要因である。平成20年度より下水道使用料の料金改定(改定率25.1%)を行っており、今後も一般会計からの繰出金抑制に努める。

○人口1人当たり地方債残高
集中改革プランに基づく財政健全化計画及び起債発行の指針に基づき、災害復旧事業及び振興基金創設に伴う合併特例債事業以外の事業については、毎年度の新規発行を抑制し、起債残高抑制に努める。

○人口1,000人当たり職員数
平成19年1月に「出水市職員定員適正化計画」を策定し、スリムで効率的な行政組織を目指している。

○人口1人当たり人件費・物件費等決算額
類似団体と比較すると、人件費の割合が高く、物件費の割合が低くなっている。これは、市立保育園(9園)等直営の公共施設管理費が大きいことがあげられる。公の施設の見直し方針に基づき指定管理者制度の導入や民営化により、人件費・物件費等経常経費の抑制に努める。